

No.	研究課題名	研究概要	研究代表者	進捗状況	本会助成金の有無	備考
1	SNBの評価に関する研究	胃癌におけるsentinel nodeの意義についての検討を行い、センチネルリンパ節生検に関する指針(案)が作成されたが、トレーサー薬剤が薬事法上適応外使用に相当する時点では高度医療(第3項先進医療)として申請した上で臨床研究を行うこととし、胃癌学会のホームページ上での学会員への広報を行った。	北川 雄光	完了	なし	本会HP上で広報
2	PETに関する評価と日常臨床応用への指針の基本策定	胃癌診療におけるPET使用の基本指針の策定を目的として、Working Groupを結成し、その成果については“Gastric Cancer”誌への投稿を行う一方で、ホームページでの学会員への広報も行った。	島田 英昭	完了	なし	Gastric Cancer. 2011 Mar;14(1):13-21. Japanese Gastric Cancer Association Task Force for Research Promotion: clinical utility of <sup>18</sup> F-fluoro-2-deoxyglucose positron emission tomography ingastric cancer. A systematic review of the literature. Shimada H, Okazumi S, Koyama M, Murakami K.
3	腫瘍マーカーの臨床的意義に関する検討	胃癌診療における腫瘍マーカーの意義についてWorking Groupを結成し、その成果については“Gastric Cancer”誌への投稿による学会員への広報を行った。	島田 英昭	完了	なし	Gastric Cancer. 2014 Jan;17(1):26-33. Clinical significance of serum tumor markers for gastric cancer: a systematic review of literature by the Task Force of the Japanese Gastric Cancer Association. Shimada H, Noie T, Ohashi M, Oba K, Takahashi Y.
4	GC0301/TOP-202試験「切除不能進行・再発胃癌に対するS-1 vs S-1/CPT-11 第Ⅲ相市販後臨床試験」に付随する自主研究 —化学療法を施行した進行・再発胃癌症例における効果予測因子および予後因子に関する研究—	GC0301/ TOP-002試験の附随研究として、化学療法を施行した進行・再発胃癌症例における効果予測因子および予後因子に関する検討を行う。	円谷 彰	論文査読中 nanostring解析進行中	なし	
5	手術リスク観察研究 高齢者や緩和的手術を安全に施行するための胃癌手術死亡および合併症の高リスク群同定に関するケース・コントロールおよびコホート研究	高齢者や併存疾患を有する胃癌患者に対する、手術リスクの評価を目的として、NCDデータを用いて解析を行い、その成果から妥当な手術適応基準の作製を目指す。将来的には、ガイドラインへの掲載を目指す予定である。	円谷 彰	Draft 作成中	あり	
6	腹膜播種に基づく腸管狭窄により経口摂取が不可能になった切除不能進行・再発胃癌症例に対するsurgical interventionの意義と適応に関するQOL scoreを使用した前向きコホート研究	腹膜播種に基づく腸管狭窄によって経口摂取不能となった切除不能進行・再発胃癌症例に対するSurgical Interventionを行い、手術前後における様々な評価から、その臨床意義の検討を検証し、適応を明らかにする。	藤谷 和正	進行中	あり	
7	狭窄症を伴う初発治癒切除不能進行胃癌により経口摂取が不可能になった症例に対するsurgical interventionの意義と適応に関するQOL scoreを使用した前向きコホート研究	狭窄症を伴う初発治癒切除不能進行胃癌によって経口摂取不能となった症例に対するSurgical Interventionを行い、手術前後における様々な評価から、その臨床意義の検討を検証し、適応を明らかにする。	藤谷 和正	進行中	あり	
8	1cm以下の胃カルチノイドRindiⅢ型のリンパ節転移危険因子に関する多施設共同後ろ向き研究	RindiⅢ型の胃カルチノイドに対する内視鏡切除を含めた局所切除の妥当性やリンパ節郭清を伴う胃切除の必要性を明らかにするため、病理学的再評価ならびに各施設へのアンケート調査を行う。	佐野 武	進行中	あり	

No.	研究課題名	研究概要	研究代表者	進捗状況	本会助成金の有無	備考
9	食道胃接合部癌の至適リンパ節郭清範囲を検討するための全国調査(多施設共同研究)	R0切除可能と診断されるcT2以深の食道胃接合部癌を対象として、縦隔リンパ節および大動脈周囲リンパ節の転移割合をprospectiveに調査し、至適郭清範囲について検討する。食道学会との共同で、現在、参加施設からの症例登録・集積中である。	北川 雄光	進行中	あり	
10	進行度(病理分類)Ⅰ,Ⅱ期胃癌患者の胃切除後の骨密度変化に関する前向きコホート研究(LOHAS Study)	進行度(病理分類)Ⅰ,Ⅱ期胃癌患者を対象として、胃切除後の骨密度変化を前向きに追跡調査する。	今野 元博	進行中	なし	現在、胃癌登録施設を対象に症例登録・集積中である。(2015.11)
11	胃癌手術におけるGrade別術後合併症予測モデルの開発(NCD関連)	本研究は、E-PASSを開発した手法を参考に、膨大なNCDデータを用いて胃癌手術における術後合併症の発生率をClavien-Dindo分類のGrade別に予測するシステムを開発することを目的とする。	芳賀 克夫	進行中	あり	
12	本邦における胃癌に対する腹腔鏡下手術成績に関する後ろ向き調査研究(NCD関連)	NCDデータを用いた後ろ向き研究によって、全国の一般・市中病院を含んだ胃癌手術全症例を対象に、腹腔鏡下手術と開腹手術を比較し、腹腔鏡下手術の安全性やそれに関連する危険因子を評価することで適切な術式選択や適応を検討する。さらには施設区分や施設の症例規模による治療成績を評価することで、症例集約の必要性の有無などについても検討する。	吉田 和弘	進行中	あり	